

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Scalpel excision of basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の外科的切除	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCCQ7-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	646395	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	114	
	号	5	
	ページ	739-42	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1978	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Bart RS	New York University Medical School
その他著者 1		Schrager D	
その他著者 2		Kopf AW	
その他著者 3		Bromberg J	
その他著者 4		Dubin N	
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の手術治療	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	New York 大学	
	対象者	1955～1967 年の間に受診した BCC 患者 446 例から得た 468 検体	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	外科的切除	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	① 累積 5 年再発率は 6.8%であった。特に再発が多かった部位は、 瞼周囲(13.0%)、被髪頭部(10.5%)、鼻と鼻の周囲(7.1%)であった。 ② 再発に対して再度の治療を行って、その後の追跡調査では 99.1% (464/468) において治癒が得られた。 ③ 2 回目の手術後において、少なくとも 70%が整容面において十 分満足が得られている。最も多い副次的作用は瘢痕であった。	
	結論	病変の大きさが増すと瘢痕を形成する頻度が高くなる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 手術における副次的作用を検討している。	